

幼保小の架け橋プログラムに関する調査研究事業
成果報告書
(令和4年度～令和6年度)

機 関 名： 枚方市

Ⅰ. 事業実施の目的

<事業実施の目的>

幼保小連携の推進により、教育の質の向上が確実に図られるよう、小学校敷地内にある協力園における研究の経過や研修内容の好事例を市内の他園・他校へ臨時配信・共有し、内容を磨き上げていくことで、どの地域においても活用可能なカリキュラムを開発する。

～架け橋期の子どもたちの育ちを伝えよう、広めよう、みんなで支えよう！～

本市では、当初、どの地域においても活用可能なカリキュラムを開発することをめざし、～架け橋期の子どもたちの育ちを伝えよう、広めよう、みんなで支えよう～というスローガンを掲げた。これまでに連携体制が確立されていた小学校敷地内にある公立幼稚園と事務局が中心となって、今ある体制の中で無理なくできることからスタートした。

協力園である公立幼稚園が校区会議や合同研修などを開催し、その内容を公立幼児教育施設の会議や研修で共有し、小学校の先生や私立幼児教育施設に対しても参加を募っていくなど、少しずつ架け橋プログラムの取組を進めてきた。

その際、架け橋期のカリキュラムを作成することが負担感につながることなく、先生たちが必要感ややりがいをもって楽しく進めていけるような連携体制の構築に試行錯誤を重ねていった。

幼保小連携の現状

各学校、就学前児童施設に任されているため、内容の差が大きい。



- ・1園に対する就学先の学校が多い。
- ・1校に対する就学前児童施設が多い。
- ・公立幼稚園は隣接している為、これまでも連携や、研究は行っていたが、職員体制が変わると持続が難しい。

これまでの幼保小連携の現状としては、各学校園所に任されており、取り組みの内容は、連携体制が確立しているところもあれば、全く連携がとれていないところもあり、内容の差がとても大きいものとなっていた。

就学前と小学校の縦のつながりにも課題が見られた。1園からの就学先の小学校数が多いことから、どの小学校を軸に連携をしてよいか分からない、ということや、また逆に小学校側としても、多数の就学前から入学してくることから、立地柄、どうしても連携しやすい就学前と、しにくい就学前があるという現状であった。

その中でも、公立幼稚園は小学校と隣接しており、これまでも平成20年の学習指導要領改訂からモデル学校園を指定して子ども同士の交流から始まり、アプローチカリキュラムとスタートカリキュラムを接続期のカリキュラムとして研究を重ねてきました。

これまでに、生活科を軸とした子ども同士の交流で幼小連携事業を進めてきたこともあったが、職員体制が変わると持続が難しくなるなどの現状があった。

幼保小連携の現状

各学校、就学前児童施設に任されているため、内容の差が大きい。

横のつながり

- ・公立幼稚園の中に公立小規模保育施設ができたことで、公立同士幼保のつながりがもててきたが、施設類型が違っていると交流は難しい。
- ・地域によって、小学校区コミュニティ等でつながる機会もあるが、私立就学前児童施設は属していない所が多い。

横のつながりとしては、令和元年度、公立の幼稚園の敷地内に公立小規模保育施設が出来、4園が「枚方版子ども園」となったことで、折に触れ、互いの教育観、保育観を知る機会が増え、公立幼稚園、保育所間の横のつながりがもてるようになってきた。

しかし、施設類型が違う私立園とのつながりは、公立幼稚園の研究発表、公開保育で近隣の私立園に限られた園に声をかけたり、地域の小学校区コミュニティで顔を合わせたりする程度で、もともと属していない園所も多く、つながりがほとんどもてていない現状であり、横のつながりにおいても、各園（所）、地域、小学校間によって、内容の差が大きかった。

市の課題

小学校、幼稚園、保育所等、各施設単位での
連携は難しい



施設類型の枠を超え、小学校区毎に市としての
連携体制を構築することで、つながりを確かなもの
にしていきたい。

縦横のつながりで捉えた時、見えてきた市としての課題は、連携自体が各施設に任されてしまうと何からつながっていけばよいのか分からず、連携することの難しさが浮き彫りになっていた。

そこで、教育委員会事務局、市長部局が、市の体制として校区ごとに区割りをし、施設類型の枠を超えて連携を進めていけるようにした。また、職員が変わったとしても、つながりを深め、確かなものにしていくため、校区ごとの連携体制の構築をめざすこととした。

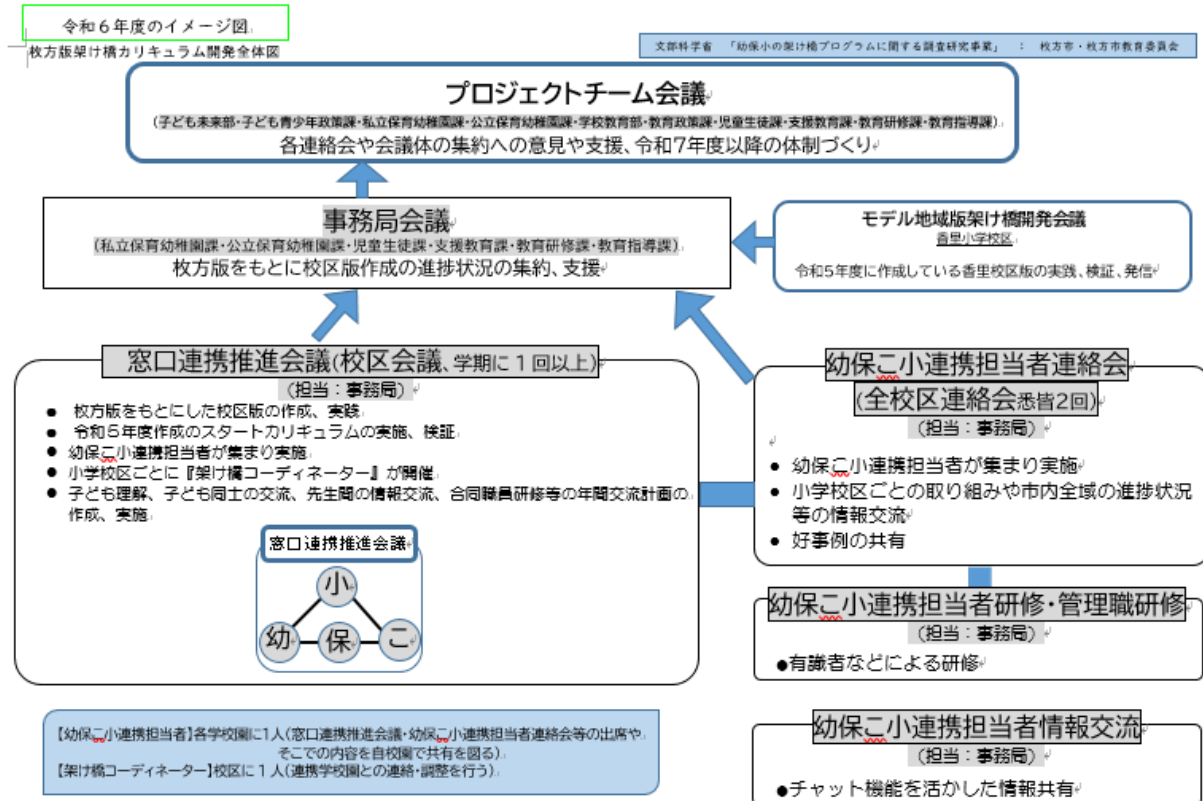
<園・小学校の施設数等>

	幼稚園			保育所		幼保連携型 地域裁量型		小学校		
	国立	公立	私立	公立	私立	公立	私立	国立	公立	私立
施設数	0	6	13	7	41	0	11	0	44	1
園児・ 児童数		421	3,566	929	5,871		880		18,998	572

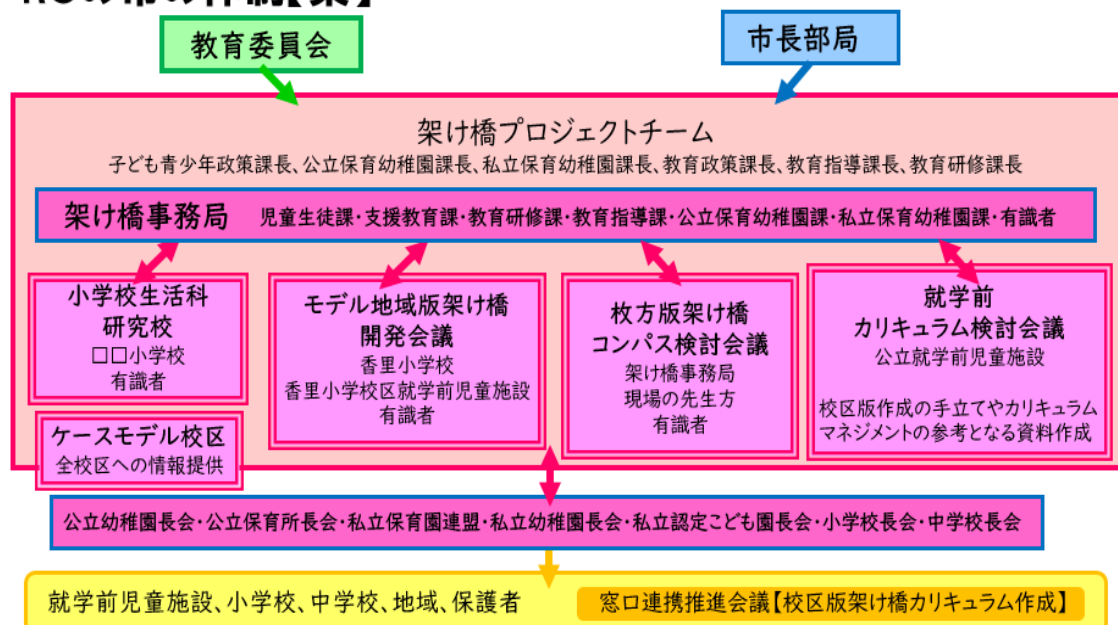
2. 事業実施に当たっての体制づくり

2-1. 組織図・体制図

<組織図・体制図>



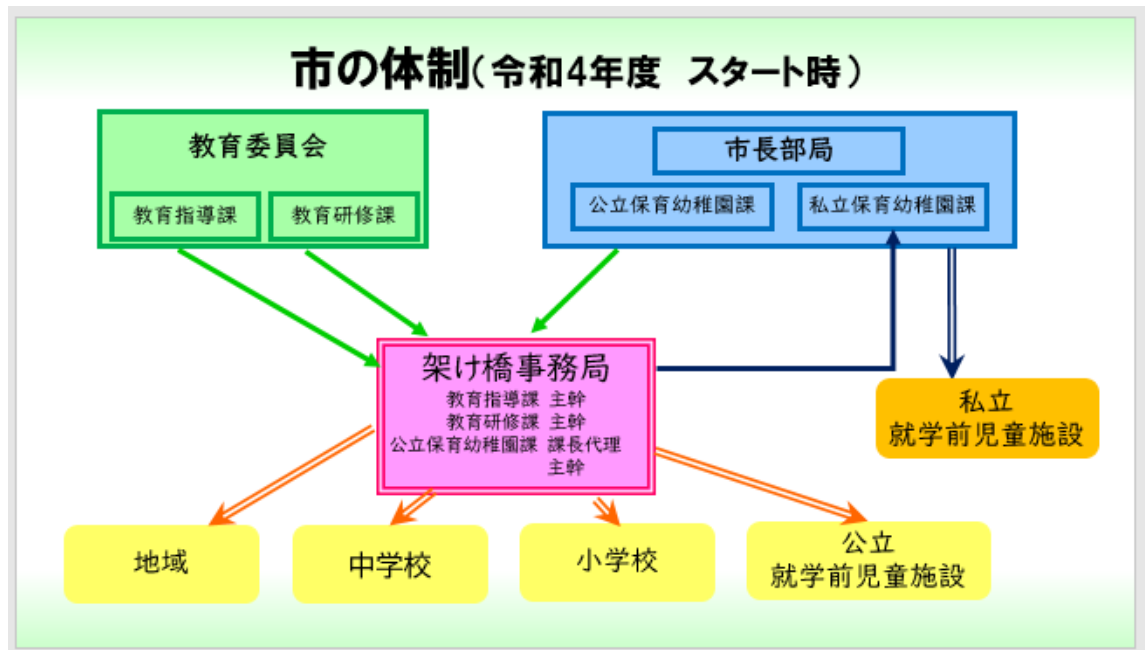
R6の市の体制【案】



<体制づくりの進め方>

【令和4年度】

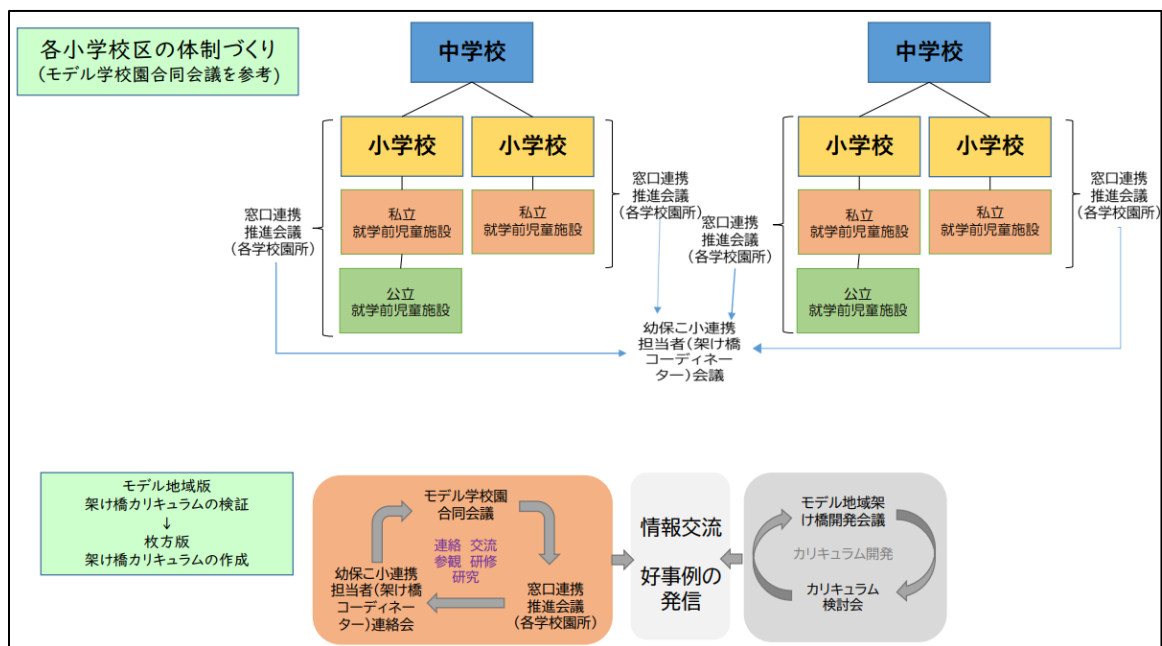
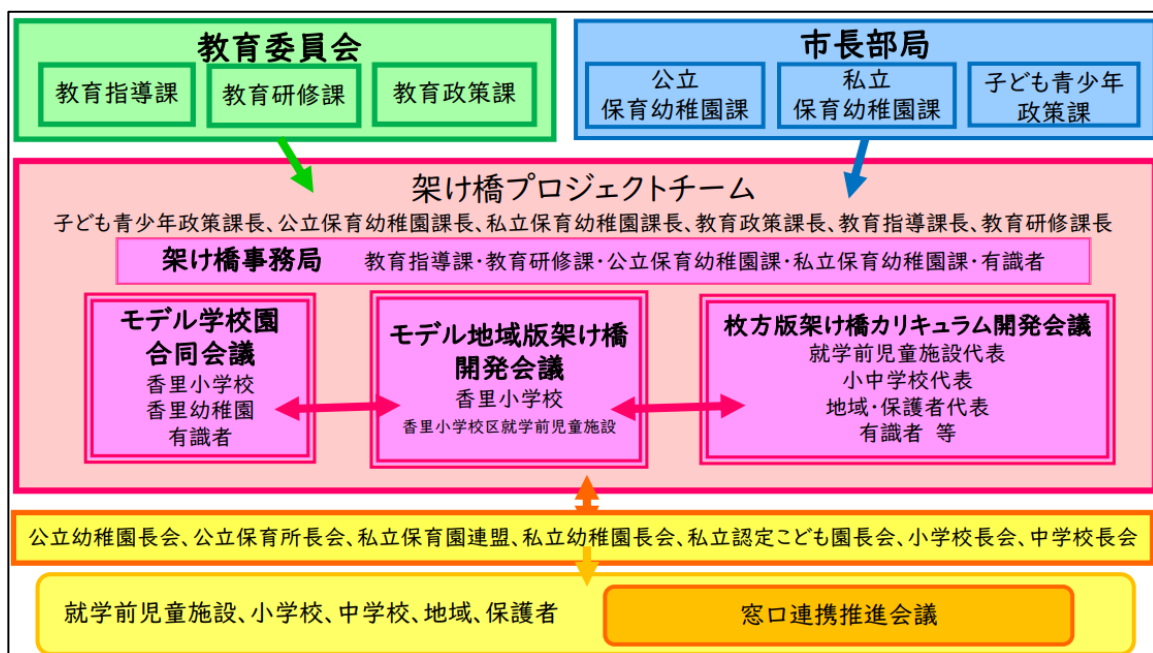
担当課：市長部局より・・・ 公立保育幼稚園課、私立保育幼稚園課
教育委員会より・・・教育指導課、教育研修課



市長部局と教育委員会事務局それぞれから、代表者を決め、架け橋事務局を立ち上げる。
令和4年度は、市長部局から公立保育幼稚園課、教育委員会から教育指導課、教育研修課の3課が主となり、進めてきた。また令和4年度はモデル地域においてモデル園長が中心となり年間10回の会議を実施、公立就学前児童施設の主任級の職員が年間11回の会議を実施し、架け橋期のカリキュラム開発に向けた見通しをもつことができた。
また、事務局からそれぞれ、小学校、公立就学前児童施設、中学校、地域へと、取り組み内容の検討や発信を行っており、私立就学前施設に関しては、私立保育幼稚園課を窓口に取り組みの発信をすすめてきた。

【令和5年度】

担当課：市長部局より・・・ 公立保育幼稚園課、私立保育幼稚園課、子ども青少年政策課
教育委員会事務局より・・・教育指導課、教育研修課、教育政策課



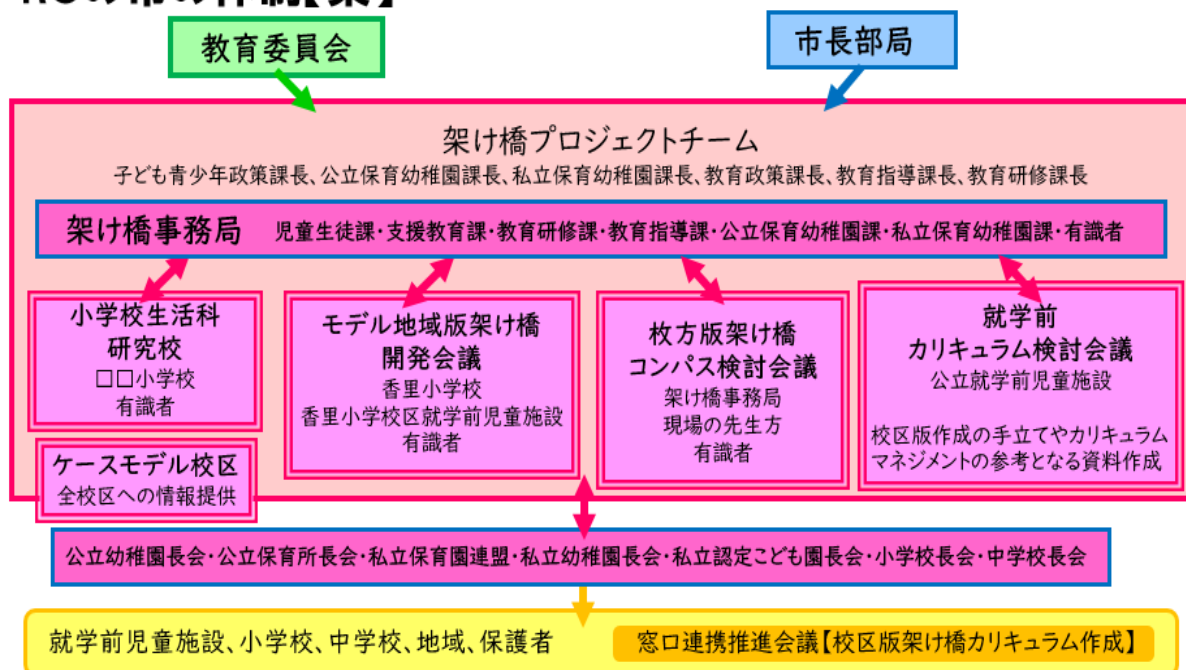
令和5年度は、市長部局と教育委員会事務局の担当者を増やし、架け橋プロジェクトチームを立ち上げ、年3回各課からの報告や、架け橋事務局から各校区の進捗状況等を共有した。
また、各小学校と全幼児教育施設とをグルーピングし、めざす子ども像や交流活動について、対話ができる体制整備を行った。
各校区では、公立幼児教育施設の担当者が中心となって小学校区毎に窓口連携推進会議を運営してきた。また、学期に1回、幼保こ小連携担当者連絡会を開催し、そこでも公立幼児教育施設の担当者が中心となって運営、支援してきた。

【令和6年度】

担当課：市長部局より・・・ 公立保育幼稚園課、私立保育幼稚園課

教育委員会より・・・教育指導課、教育研修課、児童生徒課、支援教育課

R6の市の体制【案】



令和6年度には、市長部局と教育委員会事務局の担当者をさらに増やしより連携を強化した。架け橋事務局のメンバーも増員し、担当者が各校区を受け持ち、各校区への伴走支援を行える仕組みを作った。

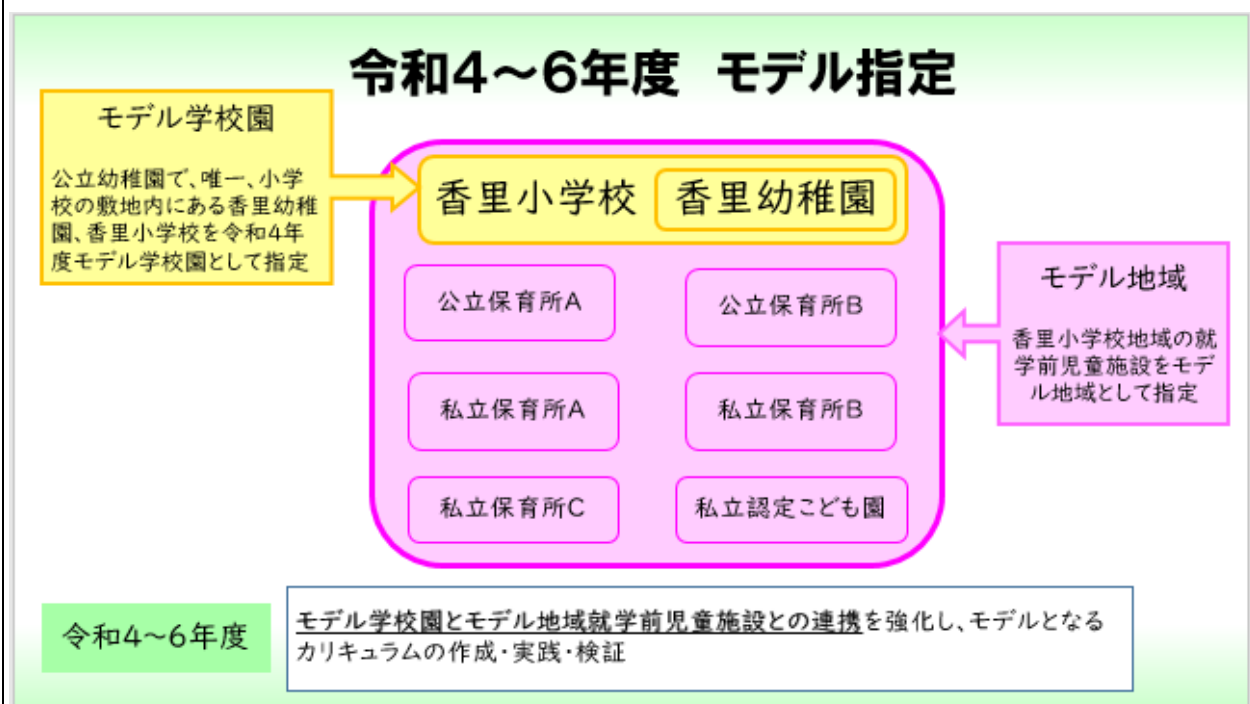
各校区では、公立の幼児教育施設の担当者だけでなく、小学校の幼保こ小連携担当者が中心となって架け橋期のカリキュラム開発を見通した連携・接続を進められるようになり、学期に1回程度の窓口連携推進会議が実施された。窓口連携推進会議の日程調整や資料の共有にはGoogle classroomを活用し、施設類型を越えて情報交流ができるように環境を整えた。このclassroomに事務局も参加していたことから、各校区の取組の様子を集約することができたとともに、好事例を発見・発信するのに役立った。

2-2. 協力園・協力校

<協力園・協力校の概要>

設置者	施設類型等	園名・校名	幼児・児童数等	接続園 校のグ ループ
公立	小学校	枚方市立香里小学校	1年生123名、2年生 109名、3年生108名、 4年生138名、5年生115名、6 年生130名	
公立	幼稚園	枚方市立香里幼稚園	3歳児22名、4歳児28名、5歳 児35名	
公立	保育所	枚方市立香里団地保 育所	0歳児12名、1歳児30名、2歳 児32名、3歳児 34名、4歳児34名、 5歳児34名	
公立	保育園	香里ヶ丘保育園	0歳児11名、1歳児20名、2歳 児26名、3歳児 26名、4歳児30名、 5歳児29名	
私立	保育園	香里敬愛保育所	0歳児 9名、1歳児23名、2歳児 27名、3歳児 30名、4歳児31名、 5歳児29名	
私立	保育園	みずき敬愛保育園	0歳児 9名、1歳児14名、2歳児 19名、3歳児 26名、4歳児22名、 5歳児25名	
私立	幼保連携型 認定こども園	勝山愛和香里ヶ丘幼 稚園	1歳児15名、2歳児19名、3歳 児103名、4歳児103名、5歳 児112名	

<協力園・協力校の指定プロセス>



令和4年度は、「架け橋期を見据えた5歳児のカリキュラムを見直しながら近隣の小学校、幼児教育施設との連携強化」の計画を実施する為に、市内で唯一、小学校の敷地内に幼稚園があり、これまでの連携体制が整っている香里小学校と香里幼稚園をモデル学校園として、カリキュラムの作成をめざしました。

また香里幼稚園の他に、香里小学校区である、公立保育所2園、私立保育所園3園、私立認定こども園1園をモデル地域とし、連携を進めてきた。

内容としては、月1回程度の近隣の保育所園、香里小学校との開発会議、公開保育や他園への保育参観、合同研修等、これまでの基盤を活かし、公立幼稚園が中心となってコーディネートし、私立園所にも積極的に誘いかけていった。

<自治体と協力園・協力校の連携・協働の取組>

【令和4年度】

- ・月に1度開催する、開発会議の内容について、公立幼稚園長と共に考え運営していく。
- ・グループ協議のテーマを提案し、施設類型を越えて対話ができるようサポートしていく。
- ・協力園・校の実践をまとめ、好事例として市内に広げていく。
- ・開発会議の内容を取りまとめ（クローバー図の作成）、次年度につなげていく。

【令和5年度】

- ・クローバー図の活用方法を示し、カリキュラム作成に向けて支援していく。
- ・モデル校園のクローバーチャットに共に参加し、視点合わせをしていく。
- ・開発会議に有識者を招聘し、価値づけし、方向性を示してもらう。

【令和6年度】

- ・モデル校園が自走し、自ら意欲的に事業を進めていくことを見守り、必要に応じて支援していく。

【課題と対応策】

- ・令和4年度、令和5年度は、協力園校と架け橋事務局が二人三脚で事業を進めてきたが、令和6年度、モデル校園の様子をみて、事務局は見守りの体制を取ることにした。

モデル校園が自走していくか、それとも伴走支援が必要か、モデル校園との対話の中で探っていき、モデル校園の意思を尊重していくことが大切であると感じた。

めざす方向性は協力園校と事務局が共有しながらも、実践方法は協力園校に委ね、言われてする、やらされてするのではなく、自ら取り組みを進めていける方向でサポートした。自治体は協力園校が自走していくためのサポートをしていくことが、大切である。

毎年、モデル校園メンバーも架け橋事務局メンバーも変わるので、新年度の引継ぎが

課題であったが、架け橋カリキュラムを作成してきたことで、前年度の取り組みの様子や、自校園所がめざす子ども像がわかるので、年々引継ぎがスムーズになってきている。

<協力園と協力校同士の連携・協働の取組>

- ・協力園と協力校同士の連携・協働の取組については、公立幼稚園が架け橋コーディネーター的な役割を担い、進めてきた。交流活動については、モデル校園が中心となって活動してきたが、カリキュラム開発においては、架け橋事務局がモデル校園の対話をヒントに方向性を示し、カリキュラムの作成をリードしてきた。

【課題と対応策】

- ・モデル校園にとって、カリキュラム開発が負担である様子であったため、モデル校園が率先して進めていく交流活動（生活科の授業交流、合同研修、その他の交流活動）から研究協議を行い、カリキュラム開発へのヒントを示しながら、カリキュラム作成をサポートしてきた。カリキュラム作成の意義を伝えていくことに苦労したが、作成し実践していく中で、だんだんと活用の仕方がわかり、モデル校園が作成したことに価値を見出してくれるようになった。モデル校園の思いに寄り添いながら、実感が伴うまで焦らずにサポートしていくことの大切さを感じた。

2-3. 協力団体等

<協力団体等の概要>

団体等名	団体等の活動概要
枚方市立小学校長会	・市長部局及び教育委員会の方針や指示伝達等を現場に伝えるとともに小学校の運営や教育内容について、現状と課題を踏まえ検討する。 ・大阪府の小学校長会の組織の中で、情報共有や研究及び研修を推進する。
公立幼稚園長会	・市長部局及び教育委員会の方針や指示伝達等を現場に伝えるとともに公立幼稚園の運営や教育内容について、現状と課題を踏まえ検討する。 ・大阪府国公立幼稚園会 理事会に参加し、府内の国公立幼稚園とともに情報共有や研究及び研修を推進。 ・市学校園活性化事業において、研究推進の主体となり、研究指定園のサポート等を行う。
公立保育所長会	・市長部局の方針や指示伝達等を現場に伝えるとともに、公立保育所の運営や保育内容について、現状と課題を踏まえ検討する。 ・各部会（保育・障害児・研修・子育て支援）を立ち上げ、研修を企画し、職員の資質向上に努める。 ・保育内容について評価を行ない、改善を図る。 ・私立保育園連盟と教育委員会及び市長部局の各担当者が出席する「教育と保育の懇話会」（年1回）に参加。
私立保育園連盟	・私立保育所（園）へ運営支援。 ・私立保育園長会にて国の動向や、進捗状況を伝えると共に合同研修案内を行う。
私立幼稚園長会	・私立幼稚園へ運営支援。 ・私立幼稚園長会にて国の動向や、進捗状況を伝えると共に合同研修案内を行う。
私立認定こども園長会	・私立認定こども園へ運営支援。 ・私立認定こども園長会にて国の動向や、進捗状況を伝えると共に合同研修案内を行う。

<各協力団体等との連携>

各協力団体へ、各団体の行う定例会にて、架け橋の進捗状況を細やかに伝達。
そこで出た質問等にその場で答えたり、後日メール等で回答したり等している。

2-4. 架け橋期のコーディネーター等

<架け橋期のコーディネーター等の概要>

新規／継続	事業に関わった 年度	役職名	経歴
(例) 新規	令和4～6年度	架け橋期のコーディネーター	元公立小学校長、幼稚園での 勤務経験あり

<架け橋期のコーディネーター等の役割等>

3. 架け橋期のカリキュラム開発会議

3-1. 会議委員等

<会議委員一覧>

会議の代表者氏名		枚方市 教育委員会 学校教育部 教育指導課 枚方市 子ども未来部 公立保育幼稚園課	23名
会議委員氏名	所属機関 所属・職名	具体的な役割分担	従事期間
井手内 太吾	枚方市教育委員会 学 校 教 育 部 次長	・プロジェクトチーム会議 ・各連絡会、会議体の集約への意見や支援 ・令和7年度以降の体制づくり	令和6年4月～ 令和7年3月
笠井 二郎	枚方市教育委員会 総合教育部 教育政策課長	・プロジェクトチーム会議 ・各連絡会、会議体の集約への意見や支援 ・令和7年度以降の体制づくり	令和6年4月～ 令和7年3月
倉田 仁司	枚方市教育委員会 学 校 教 育 部 児童生徒課長	・プロジェクトチーム会議 ・各連絡会、会議体の集約への意見や支援 ・令和7年度以降の体制づくり	令和6年4月～ 令和7年3月
秋葉 隆声	枚方市教育委員会 学 校 教 育 部 支援教育課長	・プロジェクトチーム会議 ・各連絡会、会議体の集約への意見や支援 ・令和7年度以降の体制づくり	令和6年4月～ 令和7年3月
永山 宜佑	枚方市教育委員会 学 校 教 育 部 教育研修課長	・プロジェクトチーム会議 ・各連絡会、会議体の集約への意見や支援 ・令和7年度以降の体制づくり	令和6年4月～ 令和7年3月
吉川 茂樹	枚方市教育委員会 学 校 教 育 部 教育指導課長	・プロジェクトチーム会議 ・各連絡会、会議体の集約への意見や支援 ・令和7年度以降の体制づくり	令和6年4月～ 令和7年3月
松下 秀人	枚方市 子ども未来部 次長	・プロジェクトチーム会議 ・各連絡会、会議体の集約への意見や支援 ・令和7年度以降の体制づくり	令和6年4月～ 令和7年3月
松本 裕也	枚方市 子ども未来部 子ども青少年政策 課長	・プロジェクトチーム会議 ・各連絡会、会議体の集約への意見や支援 ・令和7年度以降の体制づくり	令和6年4月～ 令和7年3月
西田 恵子	枚方市 子ども未来部 私立保育幼稚園課長	・プロジェクトチーム会議 ・各連絡会、会議体の集約への意見や支援 ・令和7年度以降の体制づくり	令和6年4月～ 令和7年3月
中道 直岐	枚方市 子ども未来部 公立保育幼稚園課長	・プロジェクトチーム会議 ・各連絡会、会議体の集約への意見や支援 ・令和7年度以降の体制づくり	令和6年4月～ 令和7年3月
中口 恵未子	枚方市教育委員会 学 校 教 育 部 児童生徒課指導主事	・プロジェクトチーム会議 ・事務局会議 ・校区版作成の進捗状況の 集約、支援	令和6年4月～ 令和7年3月
大矢 真之	枚方市教育委員会 学 校 教 育 部 支援教育課指導主事	・プロジェクトチーム会議 ・事務局会議 ・校区版作成の進捗状況の 集約、支援	令和6年4月～ 令和7年3月

倉増 智秋	枚方市教育委員会 学 校 教 育 部 教育研修課指導主事	・プロジェクトチーム会議 ・事務局会議 ・校区版作成の進捗状況の 集約、支援	令和6年4月～ 令和7年3月
山路 和明	枚方市教育委員会 学 校 教 育 部 教育研修課係長	・プロジェクトチーム会議 ・事務局会議 ・校区版作成の進捗状況の 集約、支援	令和6年4月～ 令和7年3月
棚田 惇基	枚方市教育委員会 学 校 教 育 部 教育指導課指導主事	・プロジェクトチーム会議 ・事務局会議 ・校区版作成の進捗状況の 集約、支援	令和6年4月～ 令和7年3月
大浦 規明	枚方市 子ども未来部 私立保育幼稚園課長代理	・プロジェクトチーム会議 ・事務局会議 ・校区版作成の進捗状況の 集約、支援	令和6年4月～ 令和7年3月
片山 恵里	枚方市 子ども未来部 私立保育幼稚園課長代理	・プロジェクトチーム会議 ・事務局会議 ・校区版作成の進捗状況の 集約、支援	令和6年4月～ 令和7年3月
吉永 佳央	枚方市 子ども未来部 公立保育幼稚園課長代理	・プロジェクトチーム会議 ・事務局会議 ・校区版作成の進捗状況の 集約、支援	令和6年4月～ 令和7年3月
長谷川 哲一	枚方市 子ども未来部 公立保育幼稚園課 係長	・プロジェクトチーム会議 ・事務局会議 ・校区版作成の進捗状況の 集約、支援	令和6年4月～ 令和7年3月
玉井 聡之	枚方市 子ども未来部 公立保育幼稚園課 主査	・プロジェクトチーム会議 ・事務局会議 ・校区版作成の進捗状況の 集約、支援	令和6年4月～ 令和7年3月
佐伯 実菜	枚方市 子ども未来部 公立保育幼稚園課 主任	・プロジェクトチーム会議 ・事務局会議 ・校区版作成の進捗状況の 集約、支援	令和6年4月～ 令和7年3月
岡田 充子	枚方市 子ども未来部 公立保育幼稚園課長代理	・プロジェクトチーム会議 ・事務局会議 ・校区版作成の進捗状況の 集約、支援	令和6年4月～ 令和7年3月
清水 麻紀	枚方市 子ども未来部 公立保育幼稚園課主幹	・プロジェクトチーム会議 ・事務局会議 ・校区版作成の進捗状況の 集約、支援	令和6年4月～ 令和7年3月

<会議委員の決定プロセス>

- ・教育、保育に関わる全ての課が関わることで架け橋事業は進むと考え、メンバーが選定された。
- ・教育委員会と市長部局が、共に会議体を持つことは初めてで、架け橋事業の採択を受けたことをきっかけに、連携が図られるようになった。
- ・連携を進めていくためには、全小学校と全幼児教育施設をグルーピングする必要性が出てきたため、私立保育幼稚園課が参加することになった。
- ・令和5年度、架け橋事務局メンバーの一人が児童生徒支援課に異動となり、架け橋の成果は不登校の減少につながるのではないか、という議論になったことから、令和6年度、児童生徒課と支援教育課が加わった。
- ・架け橋事業が、市制方針にも関わってくることから、令和5年度教育政策課、令和6年度から子ども青少年政策課も加わることになった。

3-2. 開催実績

<開催実績>

令和4年度		
開催日時	議事次第	主な検討内容・決定事項
5月16日(月) 16:00~17:00	第1回架け橋期のカリキュラム検討会 ・架け橋期のカリキュラム検討について	・架け橋期のカリキュラムを見据え、5歳児保育で大切に考えたい保育者としての視点を探ることで、幼児理解や遊びを通して学ぶ姿、学びの連続性等について考えることができ、学びの連続性を意識したカリキュラムを作成していくことを決定した。
6月22日(水) 16:00~17:00	第2回架け橋期のカリキュラム検討会 ・架け橋期のカリキュラム検討について	・5歳児が遊ぶ姿を「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」で捉えることを通して、幼児教育と小学校教育のつながりを考え、幼児教育は活動が違っていても、ねらいや配慮、内容等は共通することが分かり、カリキュラムに活かしていくことを決定した。
7月11日(月) 13:00~14:00	第3回架け橋期のカリキュラム検討会 ・架け橋期のカリキュラム検討について	・アプローチカリキュラムで、今の育ちを踏まえたカリキュラムになっているかを検証した。具体的な姿を根拠に検証し、カリキュラムに反映させていくこと決定した。
8月5日(金) 16:00~17:00	第4回架け橋期のカリキュラム検討会 ・架け橋期のカリキュラム検討について	・「育ってほしい10の姿」を、モデル小学校の目指す子ども像を視点に、幼稚園の期に分けて検討したことで、幅広い定義づけをしていくことを決定した。
9月15日(木) 16:00~17:00	第5回架け橋期のカリキュラム検討会 ・架け橋期のカリキュラム検討について	・幼児教育施設の参加者を増やし、横のつながりを広げて検討したことで、いろいろな視点を共有することができたので、今後参加人数を増やしてフォトチャット研修等していくことを決定した。
10月25日(火) 16:00~17:00	第6回架け橋期のカリキュラム検討会 ・架け橋期のカリキュラム検討について	・3つの資質・能力で幼児期の活動を整理したことで、小学校教育を見据えた指導計画を作成していくことにした。
11月9日(水) 16:00~17:00	第7回架け橋期のカリキュラム検討会 ・架け橋期のカリキュラム検討について	・小学校の教科別評価基準を見据えて検討した。それぞれ活動内容は違っていても、この時期に育てたい資質・能力は共通していて、小学校教育にもつながっていることが確認できた。小学校につながる資質・能力をどのように整理していくとよいか、用語の定義も含めて考えていくことを決定した。
12月1日(木) 16:00~17:00	第8回架け橋のカリキュラム検討会 ・架け橋期のカリキュラム検討について	・モデル学校園の交流活動の動画(約8分)を視聴してグループ協議をすることで、幼児教育を総合的に

		見ながら3つの資質能力で捉え、カリキュラムを検討した。それらの視点を持ち、各施設の教育計画を見直していくことを決定した。
1月27日(金) 16:00~17:00	第9回架け橋のカリキュラム検討会 ・架け橋期のカリキュラム検討について	・3つの資質・能力で整理し、「小学校へつなげる、大切にしたい視点」をどう取り上げればよいかについて検討したことで、「子どもの主体性を大切にする」「活動の意味を考える」「実体験を通して」「どんなことも認め合える集団作り」「葛藤を乗り越えて充実感や達成感を味合わせる」等、の共通キーワードを入れていくことが決定した。
2月9日(水) 16:00~17:00	第10回架け橋のカリキュラム検討会 ・架け橋期のカリキュラム検討について	・小学校教育を見据えた「各就学前施設が大切にしていること」について検討したことで、「遊びの中で試行錯誤する」「友だちと協同する」「楽しい、やりたい、おもしろいの繰り返し」等、「架け橋期のカリキュラムを見据えた、5歳児保育で大切に考えたい保育者としての視点」が定まっていた。
3月3日(金) 12:45~13:15	第11回架け橋のカリキュラム検討会 ・架け橋期のカリキュラム検討について	・5歳児の保育内容を「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」や、18歳まで繋がっている3つの資質・能力で整理し検討していくことで、幼保の横のつながりがもつことができ、今後も横のつながり会議を継続していくことが決定した。
5月16日(月)	第1回モデル地域架け橋開発会議 ・モデル地域架け橋期のカリキュラム検討について	・各施設の自己紹介をし、4・5月の子どもの様子について話合った。今後、互いを知り合いながら、交流活動を中心行い、実践し振り返り、カリキュラムを作成していくことを決定した。
5月30日(月)	第2回モデル地域架け橋開発会議 ・モデル地域架け橋期のカリキュラム検討について	・各園所の「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」に関連付けた特色ある姿(とっておきの写真)を持ち寄り検討したことで、今後毎月とっておきの写真を持ち寄り検討していくことを決定した。
6月29日(水)	第3回モデル地域架け橋開発会議 ・モデル地域架け橋期のカリキュラム検討について	・互いの施設が大切にしている活動について出し合い、小学校の「教育目標」「願う児童像」から読み取っていくことで、カリキュラムに活かしていくことを決定した。
7月21日(木)	第4回モデル地域架け橋開発会議 ・モデル地域架け橋期のカリキュラム検討について	・1学期の姿を「3つの柱」で捉えることを通して、幼児教育と小学校教育のつながりを検討したことで、互いの教育観の違いに気づき、共通性にも気づ

		くことができた。今後もフォトチャット研修等を取り入れながら検討していくことを決定した。
9月28日(水)	第5回モデル地域架け橋開発会議 ・モデル地域架け橋期のカリキュラム検討について	・「運動会への取り組み」の中で大切にしている活動や、子どもの姿について、フォトチャットを通してグループ協議することで、3つの資質・能力で整理し、小学校の「体育」や「道徳」等と、どうつながっているかを検討した。それらをカリキュラムに反映させていくことを決定した。
11月22日(火)	第6回モデル地域架け橋開発会議 ・モデル地域架け橋期のカリキュラム検討について	・Ⅰ・Ⅱ期に各施設が「大切にしている活動」をモデル地域が育てほしい子どもの姿としてまとめ、今後どのような共通の視点でⅢ・Ⅳ・Ⅴ期へと積み上げ、小学校へとつなげていくかを検討したことで、モデル地域は非認知能力を大切にしていることがわかった。認知能力は自分で育てていけることから、人間性を涵養することが子どもたちに関わる大人の役割であると考え、非認知能力を共通項目として、カリキュラムを作成していくことを決定した。
1月13日(金)	第7回モデル地域架け橋開発会議 ・モデル地域架け橋期のカリキュラム検討について	・これまで各校園所が大切にしている活動の発表や、研究協議を積み重ねてきた中で、キーワードを共有し、まとめたもの(クローバー図)を提案し、検討したことで、資質・能力の5分類、「活動」については再検討、自園所のカリキュラムをこれらの視点で見直してみることが決定した。
2月6日(月)	第8回モデル地域架け橋開発会議 ・モデル地域架け橋期のカリキュラム検討について	・これまでの取り組みについて、各施設園が感じたこと、取り組みの成果、取り組んできたことによって変化してきたこと等出し合えて、それぞれの思いを聞くことができ、次年度に向けての課題が明確になった。各施設の思いや願いが詰まったカリキュラムを作成していくことを決定した。

令和5年度		
開催日時	議事次第	主な検討内容・決定事項
4月19日 10時～12時	第2回プロジェクトチーム会議	・令和5年度の架け橋期のカリキュラム全体像について検討し、カリキュラムのたたき台を作成した。
5月15日 15時～17時	モデル地域架け橋開発会議	「モデル地域版カリキュラム」をもとに、モデル学校園の教職員で検証の方法や、カリキュラムにのせていく活動内容等の検討を図り、生活科の授業交流を中心にカリキュラムを作成していくことを決定した。

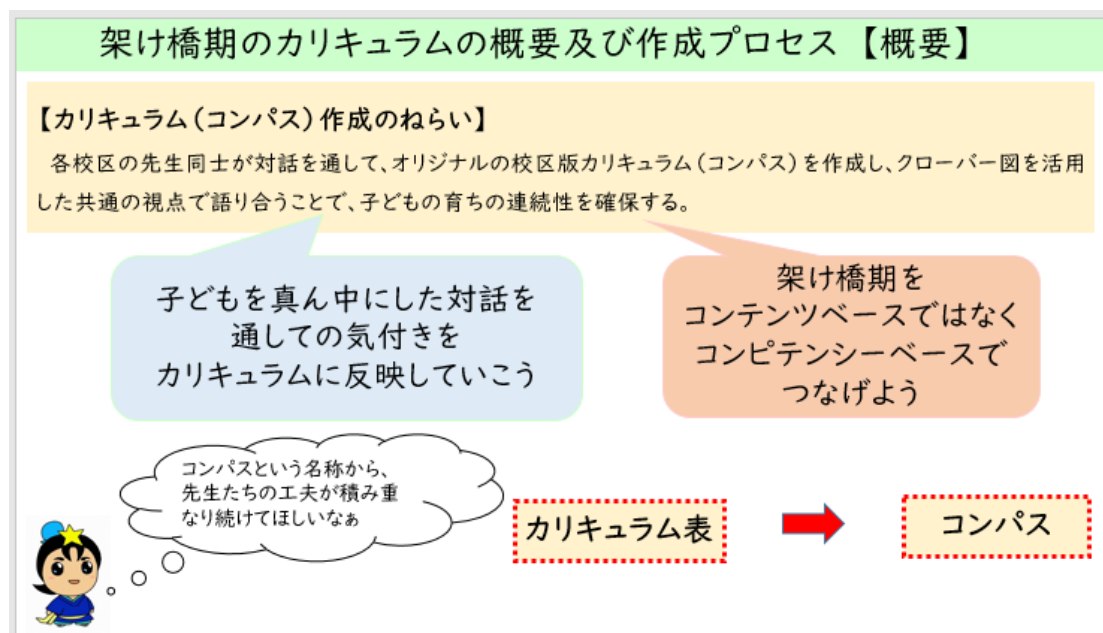
7月10日 15時～17時	第2回プロジェクトチーム会議	・カリキュラム開発の方向性について ・枚方版架け橋期のカリキュラム作成は架け橋事務局で行い、モデル地域には意見聴取を行うことを決定した。
7月28日 15時～17時	モデル地域架け橋開発会議	香里小学校の1年生とモデル地域の幼児教育施設の年長児の交流から、「モデル地域版カリキュラム」を検討し、クローバー図の視点で今後も検討していくことを決定した。
8月3日 14時半～17時	架け橋事務局カリキュラム検討会議	・モデル地域のクローバーチャットを活かして、枚方版架け橋カリキュラムのイメージを固めていった。
11月24日 16時～17時	モデル地域架け橋開発会議	・「モデル地域版カリキュラムの検証」 ・香里小学校1年生と地域の就学前施設の交流から架け橋期の子どもたちの育ちをつなげる枚方版カリキュラムを同時に作成し、遊びを通して育つ幼児教育の資質能力を小学校の学習に活かせるカリキュラムの検討をおこなった。
11月30日 14時半～17時	カリキュラム検討会議	・「枚方版架け橋期のカリキュラム」の作成をめざす。
11月30日 14時半～17時	カリキュラム検討会議	・「枚方版架け橋期のカリキュラム」の作成をめざす。
3月6日 15時～17時	枚方版架け橋コンパス検討会	・「枚方版架け橋期のカリキュラム」の作成から、校区版架け橋期のカリキュラムに向けて、校区支援の在り方を検討し、支援方法を共有した。
3月7日 15時～17時	カリキュラム検討会議	・「枚方版架け橋期のカリキュラム」の作成をめざし、取り組んできたことを5歳児に特化してまとめた。次年度の校区版架け橋カリキュラムに活かしていくことを決定した。

令和6年度		
開催日時	議事次第	主な検討内容・決定事項
4月25日午後3時30分～午後5時	令和6年度第1回モデル地域架け橋開発会議	モデル地域でどう活用、見直していくか→「香里小版架け橋コンパスへ」
4月26日午後3時30分～午後5時	第1回プロジェクトチーム会議	・令和6年度の計画と現状についての確認 ・1、2年目の成果と3年目の目的 ・幼保こ小連携担当者連絡会と管理者研修について
6月5日午後3時30分～午後5時	カリキュラム検討会議	「枚方版架け橋コンパス」を市内の就学前児童施設の職員で検証し「枚方版架け橋コンパス」の完成を図る
8月21日 3時30分～午後5時	第2回プロジェクトチーム会議	・1学期取組現状報告 ・第1回幼保こ小連携担当者連絡会の活

		動報告とアンケート結果について
7月16日午後3時30分 ～午後5時	第2回プロジェクトチーム会議	・1学期取組現状報告 ・第1回幼保こ小連携担当者連絡会の活動報告とアンケート結果について
7月24日 午後3時30分～午後5時	カリキュラム検討会議	「枚方版架け橋コンパス」を市内の就学前児童施設の職員で検証し「枚方版架け橋コンパス」の完成を図る
12月25日 3時30分～午後5時	カリキュラム検討会議	「枚方版架け橋コンパス」を市内の就学前児童施設の職員で検証し「枚方版架け橋コンパス」の完成を図る
10月24日 午後3時～5時	令和6年度 枚方版架け橋コンパス検討会議	「枚方版架け橋コンパス」のブラッシュアップに向けて、モデル地域での検証内容や、「校区版架け橋コンパス」の進捗状況を確認し、それらを参考にしながら今後の方向性等の検討会
12月26日 午後3時～5時	令和6年度 枚方版架け橋コンパス検討会議	「枚方版架け橋コンパス」のブラッシュアップに向けて、モデル地域での検証内容や、「校区版架け橋コンパス」の進捗状況を確認し、それらを参考にしながら今後の方向性等の検討会
令和7年1月7日 9時半～11時30分	第3回プロジェクトチーム会議	・第3回幼保こ小連携担当連絡会について ・架け橋プログラムに係る管理職研修について
令和7年1月29日(水) 午後3時～5時まで	令和6年度 枚方版架け橋コンパス検討会議	「枚方版架け橋コンパス」のブラッシュアップに向けて、モデル地域での検証内容や、「校区版架け橋コンパス」の進捗状況を確認し、それらを参考にしながら今後の方向性等の検討会

3-3. 成果と課題

<架け橋期のカリキュラムに関する議論>



の役割になってほしいという願いから、コンパスと名付けた。

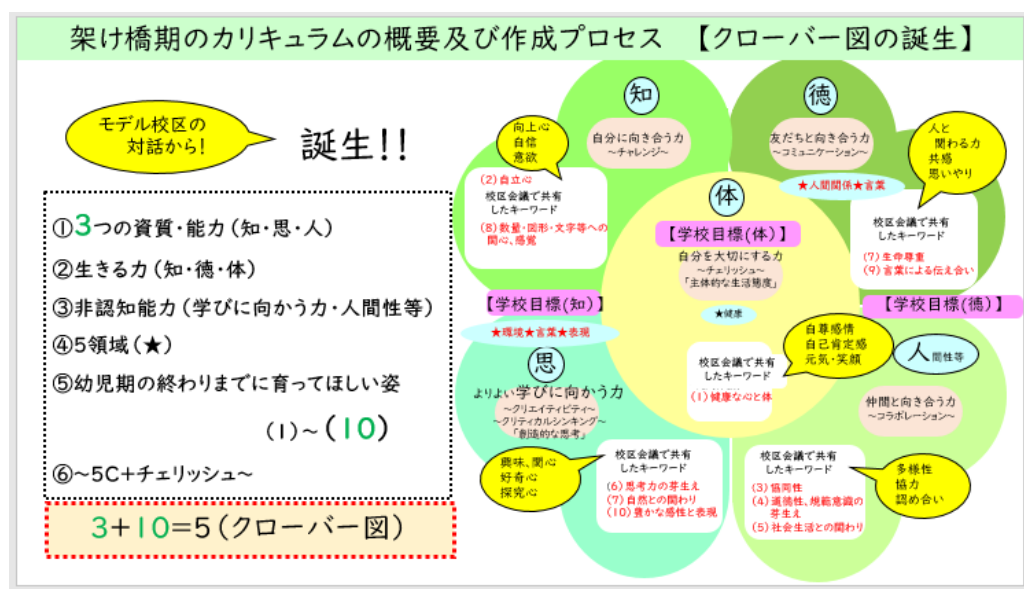
<会議設置による成果と課題>

- ・教育委員会事務局、市長部局、小学校、幼児教育施設等それぞれの立場から意見を
 交わし、理解を広げ、深めることができた。
- ・カリキュラム開発会議を重ねることで枚方版架け橋コンパスが完成し、事務局が進めて
 きた。
 コンピテンシーベースのカリキュラム表を作成、全校区に示すことができた。
 全校区はこの枚方版架け橋コンパスをもとに各校区版コンパスを作成していることから、
 コンピテンシーを意識してカリキュラム表を作成してほしいという事務局のねらいを
 くむことができている。
- ・課題としては、各校区によって接続先の施設類型やその数がちがうことから、
 開発会議ではどの校区でも実現可能であろう平易な内容でしか作成を進めていくことが
 できなかった点だ。そのため、あくまで枚方版はベースであり、校区に合わせて
 カスタマイズするよう、幼保こ小担当者に伝え、各校区のカリキュラム開発へつなげた。

4. 架け橋期のカリキュラム

4-1. 開発プロセス

- ・架け橋カリキュラムは、協力園校が主体となり、架け橋事務局が協力し、月に1回の架け橋開発会議にて、有識者も交えながら作成していった。



架け橋コンパスのコンピテンシーベースの視点であるクローバー図である。

モデル校区の対話の中で、幼児教育で大切にしている「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と小学校の評価基準である3つの資質・能力で架け橋期に育ってほしい姿をつなげる際、文化の違いで子どものみとり方が合わず、話が並行性をたどることもあった。そこでクローバー図の視点は、3歳から18歳まで共通に育てたい資質・能力である「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」を核とし、学校教育の基本である「知」・「徳」・「体」の3つを大枠として整理した。

また、0歳から18歳の長いスパンで子どもの姿を読み取る中で、就学前の5領域や幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿を踏まえた共通のキーワードが共有され、5つにまとまっていった。

対話を通して合意形成を図ってきたクローバー図は、施設間を越えて、この時期、子どもたちにどんな力や姿が見られどのようにつながっているのか、モデル校区にて共有できるようになった。

架け橋期のカリキュラムの概要及び作成プロセス【5C+Iの誕生】

- ①3つの資質・能力(知・徳・人)
- ②生きる力(知・徳・体)
- ③非認知能力(学びに向かう力・人間性)
- ④5領域(★)
- ⑤幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(1)～(10)
- ⑥～5C+チェリッシュ～ **5C+I**

枚方市で育てたい
共通の視点(資質・能力)

枚方市で育てたい資質・能力 ～枚方版ICT教育モデル～

5C(「チャレンジ(粘り強さ)」「コミュニケーション(対話)」「コラボレーション(協働)」「クリティカルシンキング(批判的思考力)」「クリエイティビティ(創造)」)の視点



モデルから誕生したクローバーの視点を全校区で活用できるように、枚方市が大切にしている非認知能力の5Cを意味づけることにした。

5Cとは「チャレンジ(粘り強さ)」「コミュニケーション(対話)」「コラボレーション(協働)」「クリティカルシンキング(批判的思考力)」「クリエイティビティ(創造)」頭文字のCを示しており、枚方市ではこの資質・能力の育成を授業の中でも大切にしている。

更に5Cに表れにくい知徳体の体を生きる力の基礎であるCとして自分を大切にできる力「チェリッシュ」と名付け、5C+Iを枚方市で架け橋期に育てたい共通の視点として全校区へ発信していくことにした。

架け橋期のカリキュラムの概要及び作成プロセス【5C+Iの活用】

各校区でリスペクト
しながら相互理解

5C+Iの視点で
子ども理解

校区オリジナルの
共通の視点

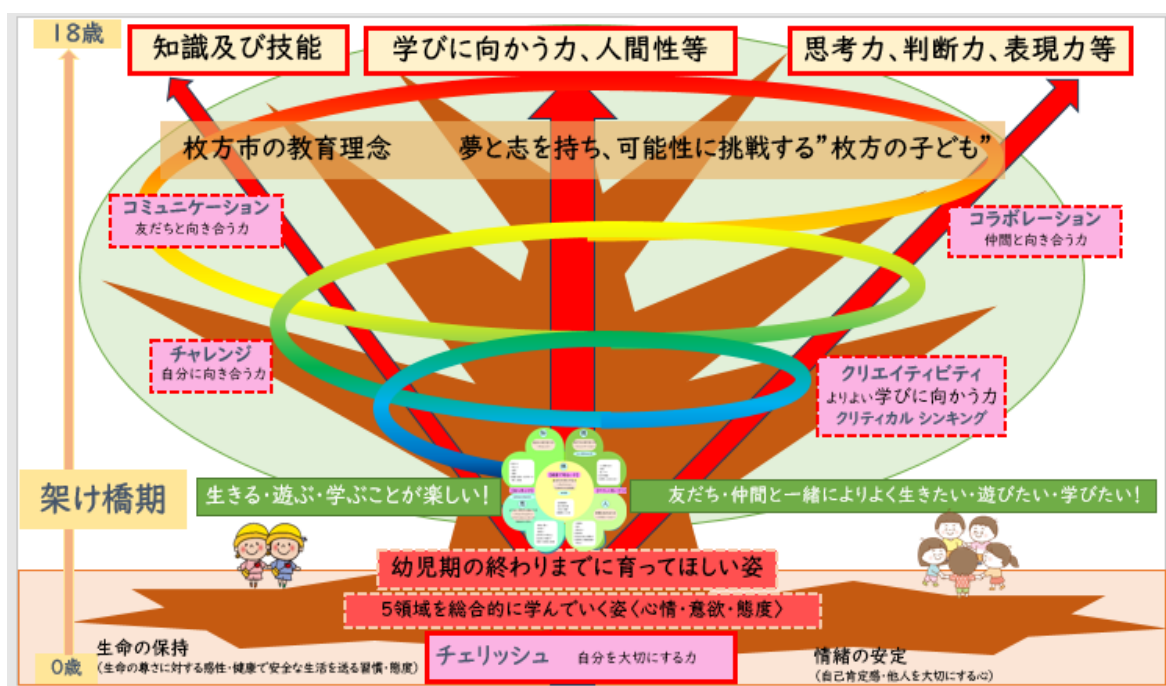
●くずは・船橋地域で育みたい資質・能力 ⇒ 体験することを通して、自ら考え行動する力



★大切にしたい視点: 思考力の芽生えを大切に、自尊感情や自己肯定感を高める。

令和5年度は、主に年3回の、全校区の幼保こ小担当者が集まる連絡会で、5C+1を手掛かりとした意見交換を重ねていった。校区によっては育てたい資質・能力をひまわり図として整理して子ども同士の交流の前後に振り返る視点として活用しているところも出てきた。

ぐんぐんツリー



更に全校区で共有した資質・能力が、総合的・一体的に伸びていくイメージで、子どもが主体的にたくましく、のびやかにグングン伸びていくという願いを込めて、ぐんぐんツリー（仮）ができた。

これはモデル校区で架け橋期のカリキュラムを開発する際に、何度も教育観の違いとして意見が衝突したことから特に意識してできたもので、幼児教育施設の先生は、遊びにしても子どもの姿にしてもクローバー図の5つに分けて見取ることに抵抗があった。

それは、幼児教育の先生は子どもを3つの資質・能力が絡み合って一体的に伸びていくものとして捉えているのに対して、小学校の先生は、各教科等の指導を通じて到達すべき目標に向かって育てていくものという違いであった。それでも対話を重ねていく中で、単元を通してみたら、すべての資質・能力をバランスよく育てていることに気づくなど、互いがリスpektをしながらより深く理解していけるようになった。

このような違いをすり合わせる意味においても子どもが育っていくイメージを階段ではなく螺旋状に伸びていくイメージを全校区で共有していった。

架け橋期のカリキュラムの概要及び作成プロセス【枚方版架け橋コンパス】



このように積み上げてきたぐんぐんツリー（仮）のイメージを枚方版架け橋コンパスの軸とし、遊びや生活、学習活動だけでなく、どんな活動をどの時期に行い、どんな子どもの姿を大切にしているのか整理したり、先生方がどんな工夫をしているか書き込めたり、次年度への引き継ぎ等でも活用できるよう、また先生同士の交流や打ち合わせのスケジュールなども書き込めるようにして、枚方版架け橋コンパスが完成した。

4-2. 架け橋期のカリキュラムの概要

A小版 架け橋コンパス
～スタート期を大切に進められている～



**校区オリジナルの
コンパス**

B小版 架け橋コンパス
～育ちの連続性がみえるコンパスになっている～



複数小版 架け橋コンパス
～QRコードで詳細な情報にアクセス～

・枚方市のベースとなる枚方版架け橋コンパスをもとに、各校区でそれぞれの校区の実態に合った、校区版架け橋コンパスを作成。

・コンピテンシーベースであることを表すため、中央にクローバー図をもとにした育てたい資質・能力の系統性を示した。それと併記する形で教育活動や教科書の内容を示すことで、「何をして」「どんな力を育てようとしているのか」、施設類型を越えて理解し合えるよう工夫した。また、現場の先生方にとって「見て楽しい」「作成してワクワクすること」をめざし、特記事項欄を大きくとった。これにより写真や資料を添付できるようになった。

令和6年度にこのコンパスの作成を行っていく中で、アプローチカリキュラムやスタートカリキュラムが今までの適応教育から2年間を見通した活動へ変化しつつある。

4-3. 架け橋期のカリキュラムの実践

- ・協力校において、令和4年度以前、入学当初の行き渋りや教室に馴染めない児童は増加傾向にあった。
令和4年度に行った開発会議等において幼児教育の重要性に気付いたことと、幼児教育施設からすすめられたことをきっかけに、「うりこタイム」と呼ばれる自由選択遊びを取り入れた。この自由選択遊びによって子どもたちの自主性や主体性を1年担任が確認できるようになり、その後の生活科の授業改善にもつながっていった。
令和6年度には「うりこタイム」をさらに発展させ、幼児教育施設で行っていたように車座になって振り返りを行ったり、遊びの種類を子どもたちの声で増やしていったりと、改良を重ねて行っていくこととなった。その結果、行き渋り児童がゼロとなり、生活科の授業や就学前施設との交流活動において、より主体的に活動がより増えていった。

5. 自治体の支援

5-1. 研修の実施

<実施した研修の概要>

令和4年度				
実施日	研修名	実施形式	対象者	研修内容
6月22日(水)	カリキュラムマネジメント 研修	対面	就学前児童施設 職員	・公開保育「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を手掛かりとして保育を組み立てる」 ・講義・演習 「架け橋期のカリキュラムを見据えた幼児期のカリキュラム・マネジメント(1)」 ・研究協議 「(架け橋期のカリキュラム開発へつなぐ)スタートカリキュラムを見据えた指導計画の作成について」
7月27日(水)	カリキュラムマネジメント 研修	対面	公立就学前管理 職	・講義・演習 「架け橋期のカリキュラムを見据えた幼児期のカリキュラム・マネジメント(2)」 ・研究協議 「組織的かつ計画的にカリキュラムを編成していくための課題解決策について」
8月5日(金)	カリキュラムマネジメント 研修	対面	公立就学前児童 施設全職員	- 講義・演習 「架け橋期のカリキュラムを見据えた幼児期のカリキュラム・マネジメント(3)」 ・研究協議 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりとして指導計画を考える」
令和5年1月27 日(金)	カリキュラム・マネジメン ト研修	対面	公立就学前児童 施設全職員	・研究実施園現状報告 ・「架け橋期のカリキュラムを見据えた幼児期のカリキュラム・マネジメント(4)」 ・研究協議「架け橋期のカリキュラムをイメージした指導計画の作成について理解を深める。」

令和5年度				
実施日	研修名	実施形式	対象者	研修内容
5月9日	第1回 幼保こ架け橋プログラム担当者連絡会	対面	連携担当者	教育・保育の質の向上が確実に図られるよう、幼保こ連携を推進する
7月26日	就学前児童施設長研修	対面	就学前児童施設長	・講義「幼児教育に関する最近の動向と施設類型を越えた横のつながりについて」 ・実践報告「モデル地域における架け橋期のカリキュラム開発について」 ・協議「幼保小の架け橋プログラムの意義について」 ・講義「幼児期の遊びが学びをひらく～幼児教育・保育から小学校へ資質能力をどうつなげるか～」 ・実践発表「架け橋期のカリキュラムを開発するうえでの課題について」 ・協議「各学校区における連携・接続体制の課題解決に向けて」
8月2日	第2回 幼保こ架け橋プログラム担当者連絡会	対面	連携担当者	・モデル地域の取組「カリキュラムの検証について」 ・「幼小接続において大切にしたい資質能力について」 ・情報交流
令和6年1月23日	第3回 幼保こ架け橋プログラム担当者連絡会	対面	連携担当者	「クローバーに基づいた交流から2年間の資質能力をつなぐカリキュラム（名称検討）の作成について」「共通の視点を生かした架け橋期のカリキュラム開発に向けて」「スタートカリキュラムの振り返り」「年間計画の振り返りと来年度の交流に向けて」・振り返りシート記入
令和6年2月19日(月)	「主体的・対話的で深い学びとカリキュラムマネジメント」について	対面	就学前児童施設、及び小中学校管理職	令和5年度 就学前児童施設長及び、小中学校管理職に向けた管理職研修において、「主体的・対話的で深い学びとカリキュラムマネジメント」
令和6年度				
実施日	研修名	実施形式	対象者	研修内容
7月24日(水) 9:30～12:00	就学前児童施設長（管理職）研修	対面	就学前児童施設長（管理職）	・講義「幼児教育に関する最近の動向と施設類型を越えた横のつながりについて」 ・講義「枚方市の小学校教育について」 ・協議「枚方市の就学前児童施設が、共通に大切にしたい資質能力について考える」
7月24日(水) 12:45～15:00	就学前児童施設長（管理職）研修	対面	就学前児童施設長（管理職）	・講義「あと伸びする子どもの育成―学びの連続体を意識した保育・教育―」

				・実践発表「ケースモデル地域における架け橋コンパス作成について」 ・協議「生活と学びの連続性を踏まえ、幼保こ小が大切にしたいことについて」
11月8日(金)午後1時45分から午後4時45	幼保小の架け橋プログラムに関する調査研究事業 公開授業・研究協議	対面	枚方市立学校園長 就学前児童施設長	公開授業生活科「あきとなかよし」 研究協議 ①架け橋プログラム事務局より3年間の取り組みについて ②モデル地域の取り組みについて ③授業者、保育者より質疑応答
5月10日15:00～17:00	第1回 幼保こ小連携担当者連絡会	対面	連携担当者	小学校と就学前施設がコンパス作成を通して対話し、架け橋期に共通に育てたい資質能力のつながりについての理解を深め、教育と保育の質の向上を図る。
8月1日15:30～17:00	第2回 幼保こ小連携担当者連絡会	対面	連携担当者	小学校と就学前施設がコンパス作成を通して対話し、架け橋期に共通に育てたい資質能力のつながりについての理解を深め、教育と保育の質の向上を図る。
令和7年1月24日15:30～17:00	第3回 幼保こ小連携担当者連絡会	サテライト	連携担当者	小学校と就学前施設がコンパス作成を通して対話し、架け橋期に共通に育てたい資質能力のつながりについての理解を深め、教育と保育の質の向上を図る。
令和7年2月13日14時半～17:00	令和6年度架け橋プログラムに係る管理職研修	対面	小中学校・就学前児童施設長	幼児期から中学生まで探求心のつながりと指導者が共通に大切にしたい配慮について
令和7年2月25日	令和6年度 香里小学校区架け橋研修	対面	香里小学校職員、校区就学前児童施設職員、架け橋事務教員	令和6年度「幼保小の架け橋プログラム調査研究事業」において、モデル校の授業参観と有識者による指導助言及び講義を受け、3年間の取組みにおける集大成とする

<研修の成果と課題>

- ・研修の満足度は毎回高く、「幼児教育施設の先生と意見交換ができてよかった」「小学校では浮かばないアイデアがたくさんあった」「小学校の先生が幼児教育の大事さに気付いてくれてうれしい」など、研修内容やコンパスの作成を通して対話することで多くの学びがあったことと推測される。
- 一方で、どの校区でも同じ温度感で進んでいるとは言い難く、中には連携したいけど効果的に進まないという不満感や、どうしても時間を捻出できないという困り感も見られた。

5-2. 教材等の作成

<作成した教材等の概要>

- 44小校区の架け橋コンパス【別添資料①】
- 幼児教育施設（横のつながり会議）のカリキュラム【別添資料②】
- みる視点の資料【別添資料③】
- 架け橋チャット掲載記事【別添資料④】
- 香里小学校の冊子【別添資料⑤】

<教材等の成果と課題>

※教材等を作成したことによる成果と課題について、教材等を活用した方々から上がってきた声や満足度等にも触れつつ、具体的に御記入ください。

・架け橋コンパス

オンライン上で共同編集できることから、施設類型を越えて作成しやすかったという声があった。また写真や QR コードを貼り付けられることから、担当者間の引き継ぎに役立ったという声もあった。

・みる視点の資料

遊びを中心とした授業を行うにあたり、モデル校から「遊んでいるだけと見られたくない、参観する先生方に子どもたちの学びをみとってもらうにはどうしたらよいか」と相談を受けた。そこで学習指導案だけでなく、資料として授業前に配布した。

見てほしい観点を明記したことで、授業者が子ども達の様子や声を聴こうと、とても近くまで寄って参観し、子どもの学びをみとる様子が見られた。授業後の協議会においても、示していた観点での意見や質問が多く見られた。

・香里小学校の冊子

モデル園が3年間取り組んできた成果をまとめた資料である。他の校区でも真似してもらえるような事例を紹介するとともに、研究の成果をまとめている。実際に、本冊子をもとにスタートカリキュラムの見直しを行っている小学校がいくつも見られた。

5-3. その他の支援

<その他の支援の概要>

- ・枚方市が進めてきたことの一つに、各校区の自走体制の構築も含まれる。校長先生や教頭先生、幼保こ小担当者が熱意を持って進めている校区もある一方で、なかなかうまく進まない校区もあった。こうした校区には事務局が赴き、先生方に対してその校区に応じた交流活動について助言を行ったり、一緒に交流活動の内容について考えて実施したりした。こうした伴走支援の様子を Google Chat 等で発信し、市内に広げ続けている。

6. 本事業に取り組んだことによる成果

6-1. 自治体における成果

<自治体における成果>

・学びの連続性を意識したカリキュラム作り

・施設類型を越えて、対話ができる体制整備（44校区のグルーピング）

・スタートカリキュラムの見直し等による、先生たちの意識の変容

・イベント的な交流ではない、生活科等の授業交流による、先生の指導力向上

<定量的・定性的な調査結果>

令和6年度 小学校の管理職を対象としたアンケートより	R6	R5	R4
学習活動（授業）での交流活動	65.0%	46.7%	5.1%
就学前児童施設の保育を参観した。	80.0%	62.20%	—
就学前児童施設の職員が自校の授業を参観した。	47.5%	17.8%	—
地域の就学前児童施設と接続会議を行った。（オンライン含む）	32.5%	26.70%	23.10%
就学前児童施設の研修や研究会などに自校の職員が参加した。（オンライン含む）	22.5%	15.60%	0.00%
就学前児童施設の職員が自校の研究会等に参加した。（オンライン含む）	20.0%	11.10%	0.00%

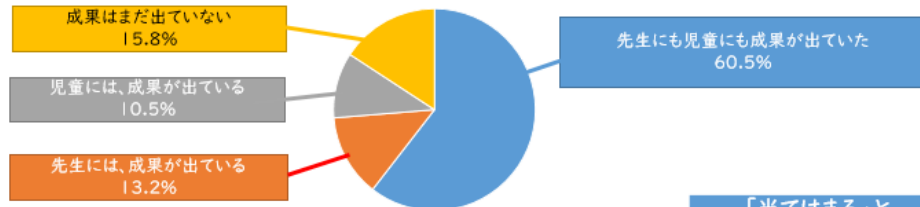
令和6年度 幼稚園、保育園、認定こども園の管理職を対象としたアンケートより

	R6	R5	R4
学習活動（授業）での交流活動。	50.0%	27.5%	—
小学校の授業を参観した。	46.9%	32.5%	—
自園（所）の保育を小学校の職員が参観した。	43.8%	22.5%	—
自園（所）の研修や研究会などに小学校の職員が参加した。（オンライン含む）	21.9%	7.5%	3.6%



令和6年度 連携担当者連絡会にて実施したアンケートより(小学校担当者)

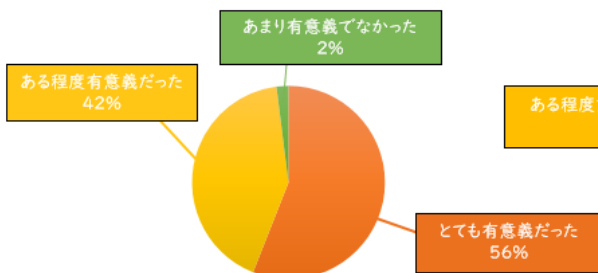
架け橋期の取組みの成果がどのように出ていますか？



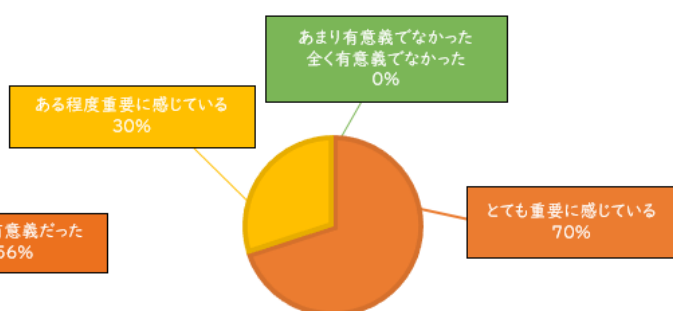
	「当てはまる」と答えた割合
生活科をはじめとする低学年の授業づくりに改良が見られた	53.1%
児童が自己選択できる場面を増やした	46.9%
集団生活の見通しを持てるようになり、友だちと助け合う児童が増えた	34.4%
子どもの安心感が向上した	28.1%

令和6年度 連携担当者連絡会にて実施したアンケートより(就学前担当者)

今回の連絡会は有意義でしたか



就学前児童において架け橋コンパスやアプローチカリキュラムの必要性をどのように感じていますか？



6-2. 園校における成果

<先生方の指導と子供の姿の変容>

先生の指導・援助及び子どもの学びの変化	
先生の変容	声掛けの変化(これしましょう→どうしたい?) 与える側から引き出す側へ 子どもに委ねられる 何もできない1年生→結構できるぞ1年生 先生主導ではなく、子どもが主役の授業・活動に 自園所のカリキュラムや保育を見直すようになった (モデル)架け橋プログラムの取組が探究的な学びの素地作りに (モデル)出来栄重視→そこに向かう過程を大切に (モデル)遊びから学ぶ子どもの姿を見取れるようになる
子どもたちの変化	【ドキドキワクワク】 慣れ親しんだ環境、道具で思う存分遊ぶことができる 遊びを通して願いや思いが出せる教室へ 遊びを通して友だちと関わる 周りが何をしているのか気になる 明日したいことをイメージできる 周りを見て学ぶ、見て真似る、見て試す (モデル)「うりこタイム」が学校へ行く楽しみの一つに!



アンケートの記述では令和 5 年度に比べて令和 6 年度に自己選択する機会を意図的に設定している内容が激増した。

生活科の授業の一環として就学前施設との交流活動を行うことが広がるよう、事務局としては支援を続けていきたい。

<保護者の反応>

- ・取り組みの様子を通信・保護者会・掲示板等で知らせることで、保護者から「小学校への不安が減り、期待がもてるようになった」という声や、「架け橋事業に取り組んでいると聞き、この幼稚園を選んだ。」という声も、アンケートから聞かれた。
- ・フォトチャットトーク会を通して、子ども理解を深めるきっかけづくりをし、また幼児教育の中味を伝えていくことができた。
- ・子どもの写真を中心に、『ときめき』『ひらめき』『学びのポイント』という3つの視点で話し合い、フォトチャットトーク会をすることで、保護者の方々と、子どもについて語り合う時間がもてた。幼稚園で大切にしている教育方針が伝わり、保護者の方々が遊びを通しての学びに気づき、有意義な時間となった。回を重ねるごとに、参加された保護者からとてもおもしろかった!夫婦で参加してみたい!と声があがり、土曜日開催をしたところ、数名のお父さんが参加され、子どもがザリガニに触れ合っている写真から、『この子たちの姿から、リーダーシップとフォロワーシップの姿が浮かび上がってくる』『この遊びは将来、国を築くことにつながるのではないか』『一瞬を切り取った場面からも、多くのことを学んでいることがわかった』などなど、

視野が広がるフォトチャットトーク会となった。

子ども達のことをゆっくりと語り合う時間が、保護者にとって心にゆとりをもつことにつながるということ、また、子どもを知ること、子どもに対してゆったりと見守ろう、という気持ちにつながり、それは虐待防止につながる、と感ずることができた。

・課題としては、教職員の時間の確保と、ファシリテーターとなる教員の育成である。

7. 今後の課題と展望

- ・事務局の支援は、「架け橋カリキュラムの作成」から「校区の自走」へ。
→現場の先生方の負担にならない形での自走体制の構築

- ・引き続き、年に3回の連携担当者連絡会を実施。
→現場のニーズに合わせた情報発信、協議題の設定

- ・小学校入学期の行き渋りの減少、小1プロブレムの解消
→数で見えにくい成果をどう算出するか

- ・子育て世帯からさらに選ばれるまちへ

- ・この取り組みが、「架け橋期のカリキュラム」を作成して終わりにならないよう、引き続き事務局としての支援を続けていく。
- ・年に3回の連携担当者連絡会の実施。Web 会議システムを活用したサテライト開催も取り入れながら、より多くの方に参加してもらえるよう工夫しつつ、続けていきたい。
- ・この取り組みにより、小学校入学期の行き渋りの減少や、「小学校に入学した子どもが学校生活に適応できず、授業中に立ち歩いたり、おしゃべりをしたり、授業の時間になっても席に戻れないといった授業規律が乱れる」いわゆる「小1プロブレム」が解消されることで、子どもたちのよりよい成長につなげていく。
- ・モデル校区である公立幼稚園での架け橋の取組に参加した保護者からは「この園に入れてよかった」との声があがるなど、保護者へもこの取り組みは広がってきている。
子育て世帯からさらに選ばれるまちへ、枚方市の魅力の一つとして、今後も架け橋プログラムへの取組を続けていきたい。

8. まとめ

- ・この事業が、未来永劫続けていくべきものであることを共通認識した上で、小学校と幼児教育施設への国からの周知と、継続した補助金等の確保をお願いしたい。
- ・自治体は、実践するものとして、直接実施していく。
- ・架け橋期が1年生までであることから、1年生と就学前との取組みと捉えてしまうと一部の学年にのみ関わる事業と映ってしまう。しかし、架け橋期の教育活動が充実することは、その後の小学校生活をより主体的に学んでいける基礎作りとなったり、総合的な学習を中心とする探究的な学びにつながったりすることが期待できる。そのため、粘り強く小学校に対して取組を続けていってもらうとともに、多くの先生方が1年生とともに遊びが学びにつながっていることを実際にみとっていく必要があると考えている。徐々に先生方の理解が広がり、深まっていくよう、今後も取組を推進していく必要がある。
- ・施設類型を越えて連携していくために、互いの教育活動へのリスペクトが必須である。そのため、地域全体で子どもたちを育てていこうという意識をもつため、校区内での育てたい子ども像の共有や、クローバー図を使ったワークを取り組んできた。こうした取組は今後も続けていきたい。
- ・カリキュラムを作成することはゴールではなく、カリキュラムを活用していくことが本事業を続けていくために必要なことと言える。そのためにも、写真を活用して情報量を増やす、いつでも見られる・編集できるようICTを活用する、共通の視点でお互いの教育活動の良さを理解していくことが大切であり、現場の負担感を減らしていくことにもつながると考えている。また、交流活動についても、イベントとして実施するだけでは小学校にとって負担感が増してしまい、担当が代わってしまうことで立ち消えてしまう。きちんと教科指導と関連付けることで、生活科の授業の深みも出ていくことにつながる。こうした取組を事務局としては伴走支援していくとともに、学校の好事例を定期的に発信していくことで市内全校の取組が進んでいくことをねらっていききたい。